

岳南鉄道と公共交通



平成 23 年 11 月 1 日、富士市役所庁舎で開催された「富士市公共交通審議会」に、岳南鉄道株式会社から要望書が提出されました。

その内容を要約すると次のようになります。
「ＪＲ貨物の合理化に伴い、平成 24 年 3 月を以って岳南鉄道の貨物取扱いが無くなり、収入の 2 割を失い、赤字が拡大する。企業努力では限界を超え、行政からの支援が必要。」

これを受けて、富士市議会では、2 月 1 日、全員協議会が開催され、岳南鉄道問題について市当局より説明を受けていますが、平成 24 年度当初予算については、従来通りに『公共交通支援』2,000 万円が計上されています。

市民の動きも一早く活発化し、存続を求める署名活動、市民グループ「富士市民 岳鉄イカシ隊」の発足など岳南鉄道存続に向けて、さまざまな活動が展開されてきています。

中でも、6 月 19 日には、富士市町内会連合会が、鈴木 尚市長に岳南鉄道存続のため公的支援拡大を求める要望書を提出しています。

また、吉原商店街振興組合では、商品券と岳

南鉄道の乗車券とのセット販売を行なうなど、沿線市民や団体の活動が広がっています。

一貨物から人へ

これまで、創業以来、貨物輸送を主体に運行されてきたダイヤも、終電の時間を遅くし、旅客運送に優しくなっています。

3 月 16 日をもって貨物輸送は廃止されましたが、これからは、公共交通としての存在感が増して行くと期待しています。



多くの市民が、それぞれの思いを寄せる岳南鉄道ですが、石川勝久氏が富士ニュースへの寄稿文の中で記された 4 つの提案は、まさに『市民の足』としての岳南鉄道のあり方を示しています。

- ①吉原駅を東側へ移動しＪＲとの乗り換え利便性を高める。
- ②コミュニティバスとの接続駅の整備
- ③新駅の設置
- ④ＬＲＴ車輛の導入

市民が使い易く、便利なものへ転換することが、先ず岳南鉄道に求められています。行政の支援は、交通政策として、その部分に寄せられることが第一だと言えます。

ホームページを開設しました。ぜひご覧下さい。 太田やすひこホームページ アドレス <http://web.thn.jp/ohtayasuhiko/>

発行：太田やすひこ後援会
会長 諸星 秀一
住所：富士市錦町 1 丁目 9 番 5 号
(TEL) 0545-53-2148

富士市議会議員 太田康彦
所属委員会 環境経済委員会 委員
ごみ処理施設建設特別委員会 委員長
議会改革検討委員会 委員